

利 用 報 告 書

課 題 名	奈良県民を対象とする生涯学習に関する住民調査
	A Research on the Peoples Lifelong Learning and Opinions about it in Nara Prefecture
利用者名	荒川 茂則 (社会学部社会学科・助手)
<p>1. 研究目的・内容</p> <p>生涯学習をもとめる人々のニーズがたかまってきている今日、それに対処していくための取り組みが必要とされている。これまでこうしたニーズは、主に民間のカルチャーセンターなどや地方自治体等の公共の機関が提供する学習機会の利用という形で充足されてきた。しかし、今日一方においては高度情報化のような社会変化が進展し、さらに他方では高齢化や女性の社会進出など社会の人口学的変容が顕著化してきており、生涯学習の推進はこうした状況をふまえたものとして推進されなければならないことが指摘されている。また、これまでの生涯学習政策の一定の成果や社会の高学歴化等の結果、住民の学習欲求も高度化しており、大学等の高等教育機関がこうした住民層の学習ニーズに本格的な形で対処していく時期が到来しているのではないかという問題意識が提示されるに至っている。本研究は、こうした問題意識に立脚しつつ計画されたものであり、とくに奈良大学が立地する地域の住民の学習関心・意欲、さらには生涯学習観や大学への意識等についてデータ収集を行い、統計的手法をもちいた分析によって、今後の生涯学習社会化の動向を予測し、大学の果たすべき役割を解明することを目的とした。</p> <p>2. 研究方法・計算方法</p> <p>平成4年度に奈良市、郡山市、生駒市で実施したアンケート票による調査結果を集計し、その解析を行った。計算にあたっては本センターの大型計算機を使用し、SPSSによる解析を行い、クロス分析、平均値の算出、相関分析等の処理を行った。</p> <p>3. 研究成果</p> <p>本研究によって、人々が生涯学習に求める目的は主として生きがいの探求や自己発見であり、学習意欲としてはやや不定形な性格をもつこと、大学における生涯学習への期待はかなり大きなものといえるが、前述のような意識傾向のゆえにかその内容は大学に対するあこがれといった域をでるものとはいいいがたいようである。その他、人々の学習意識には前述したもの以外にも、さまざまな要因が含まれ、今日の生涯学習化は複雑な様相を呈したものであることが推察された。</p> <p>4. 発表・出版実績</p> <p>荒川茂則 日本教育社会学会大会にて研究報告 1995年10月 日本女子大学 荒川茂則 『生涯学習社会の構想と意識 その教育社会学的研究』 (奈良大学紀要)</p>	